

『資本論を読む会』 第12回(8月例会)への 案内です!

【次回8月の「読む会」は】
2019年8月27日(火)午後6時~
会場:支局・社青同事務所



7月の例会は、今回も5人で読み合わせと討論をやりました。「第3章・第2節 流通手段 b貨幣の流通」です。

若干の時間をとって、前回議論できなかった「第一節、価値の尺度」の中のP168注50「労働貨幣」について、レポーターのTKさんより説明をもらって、意見交換しました。

『オーウェンの「労働貨幣」は「劇場切符」のようなもので、「貨幣」ではない。』とのこと。

最近ちょうどFace Bookの発行予定の仮想通貨Libraや、参院選の反緊縮経済政策の目玉MMT理論やヘリマネ論など、マルクスの資本論の貨幣理論に関わる議論が活発です。なかなか結論的なことは言えませんが、面白く議論していますよ。

次回は「第2節 流通手段」の「c 铸貨 価値標章」に入ります。

レポーターは引き続きKaiさんです。

初めての方も歓迎。『資本論第一分冊』(国民文庫)は、社青同にも何冊か在庫があります。また、これまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」コーナーにあります。

レポーターから

b 貨幣の流通 (ウムラウフ)

※商品流通によって、貨幣にたいして与えられた運動形態は、①(その出発点から)「不断に離られる。」ことである。②貨幣の行路である。③あるいは流通(ウムラウフ)である。

・貨幣は商品の価格を示し、購買手段である。・貨幣は、商品売り手から買い手に移行させる。※商品は貨幣と場所を替え、同時に、流通から脱落して、消費にはいる。(流通の部面から、消費の部面にはいり込み、生活手段や生産手段として用いられる。)

※流通部面では、どれだけ量の貨幣があるのか。

商品の価格総和

= 流通手段として機能する貨幣の量

同一名目個貨の流通度数

※同一個貨が一定の期間内に流通する平均度数は貨幣の流通速度である。一定期間に流通手段として機能する

貨幣量は、商品価格総額を貨幣の流通速度で除した商に等しい。・これが貨幣流通の一般法則である。

・流通貨幣量は価格運動、流通商品量および貨幣の流通速度の三要因によって規定される。

◆ここで、時間切れとなり、「c 铸貨 価値標章」については、次回へと繰り越されてしまいました。

次回は、「※貨幣とは、商品の価値を計る際の物差し代わりに使われるものだ。

・貨幣は、(流通がうまくいっていれば、)もう貨幣に金属類としての価値はなくてもいいことになる。

・商品の価値は交換するものの量で示されればいいのかであれば、何を使ってもいい。

・だからこそ最終的にそれ自身は価値のない紙で示されることになった。

・これが紙幣の誕生につながった。」

ことを、学習しましょう。(from Kai)